



足袋蔵・案内板

番号	文化財の名前	時代	特記事項		
7	大澤久右衛門家住宅・土蔵	江戸	住宅・土蔵	江戸後期の住宅と土蔵。弘化3年の大火の延焼を食い止めた。以来半蔵づくりが行田の特徴。 江戸時代の行田の大火の中で、弘化3年(1846)の大火は記録的なもの。この大火を止めたのが行田町最大の豪商であった藍染の綿布問屋の「大澤久右衛門」家の蔵。江戸後期建設と思われる住宅と土蔵。そしてこれを契機に防火に有効な蔵造りの建物が多くたてられるようになりました。住宅は風が吹き付ける側だけを塗り壁としています。こうした「半蔵づくり」の建物が行田の蔵づくりの大きな特徴です。	非公開
9	今津印刷所店蔵・主屋・土蔵	江戸	今津蔵	元禄年間(1688~1703)創業。江戸後~末最古の店蔵。由緒ある老舗印刷所。 今津印刷所は、元禄年間(1688~1703)創業と伝えられる老舗印刷所で、田山花袋の小説「田舎教師」の「行田印刷所」のモデルにもなっています。 嘉永年間(1848~1853)に棟上された間口3間・奥行6.5間の店蔵と、間口2間・奥行2.5間の味噌蔵が中庭を挟んで並んでいます。 店蔵は現存する市内最古級のもので、旧店舗部分が2階建てになっています。	現:今津印刷所
10	森家土蔵・古蛙庵	江戸	足袋蔵	嘉永3年と明治45年の土蔵造りの足袋蔵。一棟は既存の土蔵を明治時代に足袋蔵に転用。 『森家土蔵』嘉永3年(1850)と明治45年(1912)棟上の2棟の土蔵造りの足袋蔵。前者は既存の土蔵を明治時代に足袋蔵に転用したもの。現:私的民芸館「古蛙庵」。	古蛙庵
13	十万石ふくさや行田本店店舗	明治	十万石店舗	明治16年建設の行田を代表する店蔵。江戸様式の蔵が特徴(国登録有形文化財)。 この店舗は、呉服商山田清兵衛商店の11代山田清兵衛(伊三郎)によって、明治16年7月16日に棟上されたもので、行田では珍しい江戸様式の店蔵です。 昭和27年より足袋蔵となり、昭和44年に曳屋されて十万石の店舗となりました。その後なまこ壁が設けられ、平成24年の修理で白壁となりました。 行田市を代表する重厚な店蔵で、国登録有形文化財に登録されています。	十万石ふくさや行田本店店舗
17	足袋蔵まちづくりミュージアム(栗代蔵)	明治	栗代蔵	日露戦争後の足袋工場建設ブームに明治39年(1906)建てられた最初の足袋蔵。 この間口5間・奥行3間の2階建ての土蔵は、「フリダイ」の名で親しまれている栗原代八商店の白壁の美しい足袋蔵です。明治39年に日露戦争後の不景気で仕事を欲しがっていた職人に建てさせた、と伝えられています。 栗原代八商店は、文化5年(1808)創業の老舗足袋商店で、「小町足袋」、「旗印足袋」の商標で手広く商売を営んでいました。	足袋蔵まちづくりミュージアム


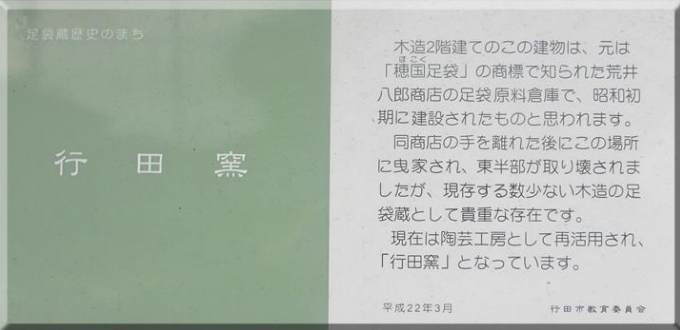
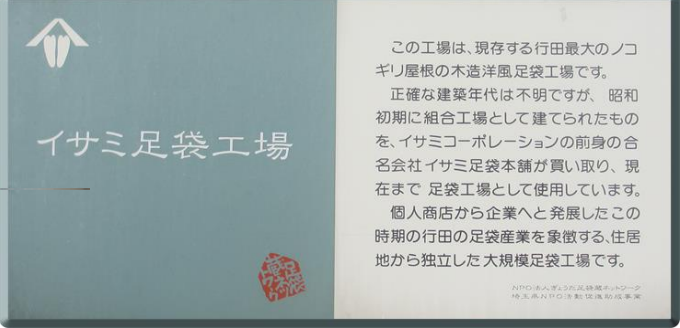


足袋蔵・案内板

番号	文化財の名前	所在地	特記事項	今の活動(お店、会社名)
19	草生蔵	明治 草生蔵	明治43年のコンクリートの水平ラインが印象的な2階建ての足袋蔵。市内で最も古い石造りの蔵	非公開
 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>足袋蔵歴史のまち</p> <h2>草生蔵</h2> </div> <div style="width: 65%;"> <p>このコンクリートの水平ラインが印象的な2階建ての石蔵は、「金楽足袋」等の商標で知られた金楽足袋株式会社が、明治43年に住宅とともに建設した足袋蔵だと伝えられています。市内で最も古い石造の足袋蔵だと思われませんが、昭和初期に建て替えられている可能性も指摘されています。現在は所有者が草生家に変わり、倉庫として使用されています。</p> <p>平成24年3月 行田市教育委員会</p> </div> </div>				
16	保泉蔵	明治 保泉蔵	明治から昭和初期と時代変遷の足袋蔵。店蔵、主屋、足袋蔵が一例に並ぶ蔵並び短冊型が特徴。	商店
 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>保泉蔵</p> </div> <div style="width: 65%;"> <p>この行田唯一の蔵並みは、かつて行田一の足袋原料商であった保泉商店の足袋の原料倉庫群です。保泉商店は明治35年に創業し、明治42年に手前側の土蔵を買い取って移転しました。そして大正5年に間口10間奥行3間の奥の土蔵を新築、昭和元年2月には大谷石の店蔵を、昭和7年に一番奥の石蔵を建設し、西側を塗り壁で繋いでこの蔵並みを完成させました。</p> <p>行田市教育委員会</p> </div> </div>				
18	Caf・閑居・足袋蔵ギャラリー・門・足袋蔵パン工房・クチキ建築設計事務所・土蔵	大正 住宅・土蔵	大正5年(1916)の足袋蔵(3階建土蔵)。昭和5年建設の奥貫賢一氏の高級住宅も含。	Caf・閑居・足袋蔵ギャラリー・門・足袋蔵パン工房・クチキ建築設計事務所
 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>足袋蔵ギャラリー「門」</p>  </div> <div style="width: 65%;"> <p>足袋蔵ギャラリー「門」、クチキ建築設計事務所</p> <p>足袋蔵ギャラリー「門」とクチキ建築設計事務所は、共に「栄冠足袋」の商標で知られた奥貫家の足袋蔵として、大正5年に建てられました。特に右側の建築設計事務所は、間口4.5間・奥行3間の行田唯一の3階建ての土蔵で、元は黒壁でした。左側の間口4間・奥行3間のギャラリーでは、不定期ながら絵画展やコンサートなどの催しが開かれています。</p> <p>行田市教育委員会</p> </div> </div>				
20	イサミコーポレーションスクール工場・事務所・土蔵・モルタル蔵・木造倉庫	大正 足袋工場	明治40年の行田最古の大規模足袋工場。大正～昭和の木造洋風住宅ノギリ屋根、蔵。	イサミコーポレーション
 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>イサミスクール工場</p> </div> <div style="width: 65%;"> <p>イサミスクール工場</p> <p>この工場はイサミコーポレーションの前身の鈴木勝次郎商店が開設した、現存する行田で最も古い大規模足袋工場(現在は被服工場)です。工場内には、大正6年建設のノギリ屋根を持つ木造洋風工場、大正7年4月建設の旧事務所、昭和13年12月建設のコンクリート製の足袋蔵などがあり、戦前の大規模足袋工場の面影を良く留めています。</p> <p>行田市教育委員会</p> </div> </div>				
15	時田家住宅・時田蔵	大正 時田蔵	大正の足袋蔵(袖蔵形式の土蔵)。周辺の足袋蔵も含めて行田の足袋産業全盛期の貴重な建物群。	非公開
 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>時田蔵</p> </div> <div style="width: 65%;"> <p>時田蔵</p> <p>T字路の突き当たりにあるこの土蔵は、「かるた足袋」などの商標で知られた時田啓左衛門商店の足袋蔵です。残念ながら建築年代は不明ですが行田では珍しい、表通りに面した袖蔵形式の土蔵で、この奥にも明治36年に建てられた足袋蔵が連なっています。左側の昭和15～16年頃に建てられた住宅と共に、行田の足袋産業全盛期の面影を残す貴重な建物群と言えます。</p> <p>行田市教育委員会</p> </div> </div>				

足袋蔵・案内板

番号	文化財の名前		特記事項	今の活動(お店、会社名)
21	田代蔵	大正	田代蔵 大正時の住居と足袋蔵。昭和初期の店舗・主屋と土蔵(足袋蔵)の5棟が一例に並んでいる。	
				
22	旧忍町信用組合店舗	大正	店舗 大正11年の木造洋風銀行店舗。ルネッサンス風の木造二階建。	新町自治体集会場【現解体中】
			ルネッサンス風の木造二階建てで屋根と壁面の配色がなかなか瀟洒だ。屋根にはドーマー窓が設けられている。元来は、足袋商店主たちが出資して創業した忍町信用組合(地元金融機関)の店舗で、表通りに面していない所あるのが珍しい。足袋産業の発展を支えてきました。かつては新町自治会の集会所として使われていたが、現在は廃屋。	
23	大澤家住宅旧文庫蔵	大正	文庫蔵 大正15年の住宅・土蔵(行田唯一のモダンレンガ蔵)。関東大震災後の耐火性を考えた建物。	非公開
				
25	奥貫蔵(あんど)	大正	奥貫蔵 大正～昭和初期の戦争景気で財を成し足袋倉庫として建設。足袋産業の栄華を伝える足袋蔵。	蕎麦店
				
36	旧荒井八郎商店事務所兼住宅・大広間棟・洋館	昭和	住宅・洋館 昭和元年・7年・10年の住宅兼事務所。かつては「足袋御殿」と呼ばれた贅をつくした建物。	和牛懐石『彩々亭』
				

足袋蔵・案内板

番号	文化財の名前		特記事項	今の活動(お店、会社名)
26	行田窯	昭和	足袋蔵 昭和初期に建設された現存する数少ない木造の足袋蔵。新井八郎商店の足袋原料倉庫。	陶芸工房「行田窯」
				
28	イサミコーポレーション足袋工場	昭和	足袋工場 昭和初期のノギリ屋根の木造洋風工場。鈴木勝次郎商店の大規模足袋工場。	イサミコーポレーション
				
27	鯨井家倉庫	昭和	倉庫 昭和3年の足袋原料倉庫。現存する市内唯一の戦前の鉄骨コンクリート造の足袋蔵。	
			<p>現存する市内唯一の戦前の鉄骨コンクリート造の足袋蔵。昭和3年(1928)に建設された鉄筋コンクリート造の元足袋原料倉庫(足袋蔵)。陸屋根の小型の足袋蔵ですが、現存する市内で唯一の戦前の鉄筋コンクリート造りの足袋蔵として貴重な存在です。</p>	
29	時田足袋蔵	昭和	足袋蔵 昭和4年の足袋専用倉庫。明治28年創業の時田啓衛門商店の倉庫	非公開
				
24	旧小川忠次郎商店店舗及び主屋	大正	店舗 大正14年に棟上げし、昭和4年頃に完成した店舗兼住宅。行田最後の店蔵(国登録有形文化財)。	そば打ち教室「忠次郎蔵」
				

足袋蔵・案内板

番号	文化財の名前		特記事項	今の活動(お店、会社名)
30	武蔵野銀行行田支店店舗	昭和	銀行店舗 昭和9年(1934)の足袋のまちを支えた銀行。彫の深い鉄筋コンクリートとスクラッチタイル。	武蔵野銀行行田支店店舗
				
14	牧野本店・主蔵・土蔵・足袋とくらしの博物館	大正	足袋工場・店舗 明治32年(1989)~大正期の足袋全盛期の足袋商店の様相を現す建物群。	足袋とくらしの博物館
				
32	藍染体験工房「牧禎舎」	昭和	工場・住宅 昭和15年の創業時に建設した工場と事務所兼住宅。戦前の日本屋敷の佇まいを継承。	藍染体験工房
				
36	孝子蔵	孝子蔵	昭和26年の店蔵兼住宅、工場、倉庫が一列に並ぶ足袋蔵。最後の輝きを伝える足袋の近代化遺産。	非公開
				
37	栗原家モルタル蔵	昭和	モルタル蔵 昭和28年に農家の米蔵を移築したモルタル蔵。数少ない戦後の移築転用された足袋蔵。	非公開
			昭和28年(1953)に館林市の農家の米蔵を移築した元:福力足袋有限会社のモルタル造の足袋蔵。数少ない戦後の移築転用された足袋蔵です。大正時代に足袋産業から派生した被服産業も台頭し、倉庫が建設された時代です。	

足袋蔵・案内板

番号	文化財の名前		特記事項	今の活動(お店、会社名)	
38	小沼蔵	昭和 和	小沼蔵	昭和29年に建設した石蔵。頑固な基礎工事が特徴で、戦後の振興、最末期の均整のとれた足袋蔵。	非公開
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;">  </div> <div style="width: 65%; background-color: #f0f0f0; padding: 10px;"> <p style="font-size: small;">足袋蔵歴史のまち</p> <h2 style="text-align: center; font-size: 2em; margin: 0;">小 沼 蔵</h2> <p style="font-size: small;">この間口6間、奥行3間の2階建ての石蔵は、「豊年足袋」等の商標で知られた株式会社豊年足袋本舗が、昭和29年に建設した足袋蔵です。</p> <p style="font-size: small;">基礎に長さ10尺の松杭を千鳥に打ち込み、杭頭に大谷石を立ててその周囲をコンクリートで固めるなど、堅固な基礎工事を行っていることが特徴です。</p> <p style="font-size: small;">戦後の新興足袋商店の台頭を象徴する均整の取れた最末期の足袋蔵です。</p> <p style="font-size: x-small; display: flex; justify-content: space-between;"> 平成24年3月 行田市教育委員会 </p> </div> </div>					